

# 地域と連携した読書指導の展開

—— 見附市立見附小学校

「読書活動」の記録 ——

足 立 幸 子

## 1. はじめに

平成 18 年度・19 年度の 2 年間、大学との連携事業として、見附市立見附小学校の 3 年生から 6 年生までの「総合的な学習の時間」に、「読書活動」を実施した。本稿は、その実施の記録と実施の意味の考察である。

この実践は、大学側から見れば、平成 18 年度日本教育大学協会の研究助成の「PISA 型読解力を育成する読書指導ができる現職教員研修プログラムの開発と実践」の研究、平成 19 年度独立行政法人教員研修センター委託の「知識社会を支える読書力育成の読書指導教員研修プログラムの開発」の研究に位置づけられ、教員研修プログラムを開発していく際に、実験的手法を試す場として用いられた。

ここにその活動の概要と用いた本・指導方法を報告し、改善点を明らかにし、アンケートの結果から、どのような成果と課題があったかを考察する。

## 2. 「読書活動」の概要

平成 18 年度・19 年度に、見附市立見附小学校「総合的な学習の時間」における 6 回の「読書活動」に外部講師として参加した。

(1 学期)

読書活動 1 回目 文学① 読書へのアニメーション 1

読書活動 2 回目 非文学① 図鑑を読む

(2 学期)

読書活動 3 回目 文学② 読書へのアニメーション 2

読書活動 4 回目 非文学② 知識の本を読む／伝記を読む

読書活動 5 回目 非文学③ 知識の本を読む／伝記を読む(非文学②の続き)

(3 学期)

読書活動 6 回目 文学③ 読書へのアニメーション 3

表1 平成18年度 文学系の図書の読書指導「読書へのアニメーション」一覧

		文学①	文学②	文学③
3年1組	本	ひとまねござる	エルマーのぼうげん	王さまばんざい
	作戦	作戦36物語ではそう言ってる？	作戦2これ、だれのもの？	作戦7どんな人？
3年2組	本	ひとまねござる	エルマーのぼうげん	王さまばんざい
	作戦	作戦36物語ではそう言ってる？	作戦51何かの役に立つ？	作戦7どんな人？
3年3組	本	エルマーのぼうげん	王さまばんざい	びゅんびゅんごまがまわったら
	作戦	作戦2これ、だれのもの？	作戦7どんな人？	作戦8にせもの文
4年1組	本	くまって、いいにおい	みどりのゆび	こちらマガーク探偵団
	作戦	作戦31どうして？	作戦9だれのことを言ってる？	作戦36物語ではそう言ってる？
4年2組	本	くまって、いいにおい	みどりのゆび	こちらマガーク探偵団
	作戦	作戦31どうして？	作戦36物語ではそう言ってる？	作戦9だれのことを言ってる？
4年3組	本	みどりのゆび	くまって、いいにおい	こちらマガーク探偵団
	作戦	作戦9だれのことを言ってる？	作戦31どうして？	作戦36物語ではそう言ってる？
4年4組	本	くまって、いいにおい	みどりのゆび	こちらマガーク探偵団
	作戦	作戦31どうして？	作戦9だれのことを言ってる？	作戦36物語ではそう言ってる？
5年1組	本	いたずらおばあさん	ビクトルの新聞記者大作戦	エーミールと探偵たち（池田訳）
	作戦	作戦32どれが本当の話？	作戦5いる？ いない？	作戦54だれが、だれに、何を？
5年2組	本	いたずらおばあさん	大どろぼうホットエンプロッツ	ルドルフとイッパイアッテナ
	作戦	作戦32どれが本当の話？	作戦39何のために？	作戦3いつ？ どこで？
5年3組	本	大どろぼうホットエンプロッツ	ビクトルの新聞記者大作戦	エーミールと探偵たち（高橋訳）
	作戦	作戦12前かな、後かな？	作戦5いる？ いない？	作戦54だれが、だれに、何を？
5年4組	本	いたずらおばあさん	大どろぼうホットエンプロッツ	ルドルフとイッパイアッテナ
	作戦	作戦32どれが本当の話？	作戦39何のために？	作戦3いつ？ どこで？
6年1組	本	ライオンと魔女	オ・ヤサシ巨人BFG	エーミールと探偵たち（池田訳）
	作戦	作戦5いる？ いない？	作戦4何を言いたいのか？	作戦54だれが、だれに、何を？
6年2組	本	ライオンと魔女	夏の庭	エーミールと探偵たち（高橋訳）
	作戦	作戦5いる？ いない？	作戦9だれのことを言ってる？	作戦54だれが、だれに、何を？
6年3組	本	エーミールと探偵たち（池田）	オ・ヤサシ巨人BFG	夏の庭
	作戦	作戦3いつ？ どこで？	作戦54だれが、だれに、何を？	作戦9だれのことを言ってる？
6年4組	本	ライオンと魔女	夏の庭	エーミールと探偵たち（池田訳）
	作戦	作戦5いる？ いない？	作戦9だれのことを言ってる？	作戦54だれが、だれに、何を？

表2 平成18年度 非文学系の図書の読書指導

	非文学①	非文学②	非文学③
3年1組	図鑑（動物）	イヌの大常識	イヌの大常識
3年2組	図鑑（動物）	イヌの大常識	イヌの大常識
3年3組	図鑑（動物）	イヌの大常識	イヌの大常識
4年1組	図鑑（動物）	〇〇の大常識シリーズ	〇〇の大常識シリーズ
4年2組	図鑑（動物）	〇〇の大常識シリーズ	〇〇の大常識シリーズ
4年3組	図鑑（動物）	〇〇の大常識シリーズ	〇〇の大常識シリーズ
4年4組	図鑑（動物）	〇〇の大常識シリーズ	〇〇の大常識シリーズ
5年1組	図鑑（植物）	おもしろくてやくになつ子どもの伝記	その他の伝記
5年2組	図鑑（植物）	おもしろくてやくになつ子どもの伝記	その他の伝記
5年3組	図鑑（植物）	おもしろくてやくになつ子どもの伝記	その他の伝記
5年4組	図鑑（植物）	おもしろくてやくになつ子どもの伝記	その他の伝記
6年1組	図鑑（植物）	まんが人物日本史	その他の伝記
6年2組	図鑑（植物）	まんが人物日本史	その他の伝記
6年3組	図鑑（植物）	まんが人物日本史	その他の伝記
6年4組	図鑑（植物）	まんが人物日本史	その他の伝記

表3 平成19年度 文学系の図書の読書指導「読書へのアニメーション」一覧

		文学①	文学②	文学③
3年1組	本	ひとまねこざる	びゅんびゅんごまがまわったら	エルマーのぼうけん
	作戦	作戦36物語ではそう言ってる?	作戦8にせもの文	作戦3いつ? どこで?
3年2組	本	ひとまねこざる	びゅんびゅんごまがまわったら	エルマーのぼうけん
	作戦	作戦36物語ではそう言ってる?	作戦8にせもの文	作戦3いつ? どこで?
3年3組	本	ひとまねこざる	びゅんびゅんごまがまわったら	エルマーのぼうけん
	作戦	作戦36物語ではそう言ってる?	作戦8にせもの文	作戦3いつ? どこで?
3年4組	本	ひとまねこざる	びゅんびゅんごまがまわったら	エルマーのぼうけん
	作戦	作戦36物語ではそう言ってる?	作戦8にせもの文	作戦3いつ? どこで?
4年1組	本	くまって、いいにおい	はれときどきぶた	こちらマガーク探偵団
	作戦	作戦31 どうして?	作戦60 ばかだなあ!	作戦9だれのことを言ってる?
4年2組	本	くまって、いいにおい	はれときどきぶた	こちらマガーク探偵団
	作戦	作戦31 どうして?	作戦60 ばかだなあ!	作戦9だれのことを言ってる?
4年3組	本	くまって、いいにおい	はれときどきぶた	こちらマガーク探偵団
	作戦	作戦31 どうして?	作戦60 ばかだなあ!	作戦9だれのことを言ってる?
5年1組	本	ルドルフとイッパイアッテナ	大どろぼうホットエンプロッツ	いたずらおばあさん
	作戦	作戦3いつ? どこで?	作戦39 何のために?	作戦32 どれが本当の話?
5年2組	本	ルドルフとイッパイアッテナ	大どろぼうホットエンプロッツ	いたずらおばあさん
	作戦	作戦3いつ? どこで?	作戦39 何のために?	作戦32 どれが本当の話?
5年3組	本	ルドルフとイッパイアッテナ	大どろぼうホットエンプロッツ	いたずらおばあさん
	作戦	作戦3いつ? どこで?	作戦39 何のために?	作戦32 どれが本当の話?
5年4組	本	ルドルフとイッパイアッテナ	大どろぼうホットエンプロッツ	いたずらおばあさん
	作戦	作戦3いつ? どこで?	作戦39 何のために?	作戦32 どれが本当の話?
6年1組	本	みどりのゆび	オ・ヤサシ巨人 BFG	夏の庭
	作戦	作戦35 その前に何が起きた?	作戦7 どんな人?	作戦12 前かな、後ろかな?
6年2組	本	みどりのゆび	ビクトルの新聞記者大作戦	夏の庭
	作戦	作戦35 その前に何が起きた?	作戦5 いる? いない?	作戦12 前かな、後ろかな?
6年3組	本	みどりのゆび	オ・ヤサシ巨人 BFG	夏の庭
	作戦	作戦35 その前に何が起きた?	作戦7 どんな人?	作戦12 前かな、後ろかな?
6年4組	本	みどりのゆび	ビクトルの新聞記者大作戦	夏の庭
	作戦	作戦35 その前に何が起きた?	作戦5 いる? いない?	作戦12 前かな、後ろかな?

表4 平成19年度 非文学系の図書の読書指導

	非文学①	非文学②	非文学③
3年1組	図鑑(動物)	イヌの大常識	イヌの大常識
3年2組	図鑑(動物)	イヌの大常識	イヌの大常識
3年3組	図鑑(動物)	イヌの大常識	イヌの大常識
3年4組	図鑑(動物)	イヌの大常識	イヌの大常識
4年1組	図鑑(植物)	〇〇の大常識シリーズ	〇〇の大常識シリーズ
4年2組	図鑑(植物)	〇〇の大常識シリーズ	〇〇の大常識シリーズ
4年3組	図鑑(植物)	〇〇の大常識シリーズ	〇〇の大常識シリーズ
5年1組	図鑑(植物)	おもしろくてやくにたつ子どもの伝記	その他の伝記
5年2組	図鑑(植物)	おもしろくてやくにたつ子どもの伝記	その他の伝記
5年3組	図鑑(植物)	おもしろくてやくにたつ子どもの伝記	その他の伝記
5年4組	図鑑(植物)	おもしろくてやくにたつ子どもの伝記	その他の伝記
6年1組	図鑑(動物)	まんが人物日本史	その他の伝記
6年2組	図鑑(動物)	まんが人物日本史	その他の伝記
6年3組	図鑑(動物)	まんが人物日本史	その他の伝記
6年4組	図鑑(動物)	まんが人物日本史	その他の伝記

依頼があったのは、年間6回「読書へのアニメーション」をしてほしいのだが、3回を文学系の本、3回を非文学系の本を用いてほしいということであった。「読書へのアニメーション」は文学しか用いないので、文学を用いた活動の1回目（文学①とする）・2回目（文学②）・3回目（文学③）は「読書へのアニメーション」をし、非文学の方は1回で完結するもの（非文学①）と2回続きのもの（非文学②・非文学③）を行うこととした。

実施した活動を、表1～表4に示す。それぞれの指導方法について、活動の実際を踏まえながら論じる。

### 3. 「読書活動」の実際と用いた指導方法

#### (1) 読書へのアニメーション (3～6年、文学①・文学②・文学③)

「読書へのアニメーション」とは、スペインで生まれた読書指導法で、読んできた本についてのゲームを通して、読み方を学ばせるというものである。そのゲームのことを「作戦」と呼んでいるが、幼児から大人まで使える75の作戦が開発されている。表5は小学生向けの作戦のタイトルを示している。例えば「作戦3 いつ? どこで?」は、その本に書かれたエピソードや登場人物の行動などのカードを見せられ、いつのことだったか、あるいはどこでだったかを答えるというものである。「作戦5 いる? いない?」は、登場人物の名前のリストを見せられて、その本に本当に登場した人物はどれかを答えるというものである。当然作戦はその本に合ったものでなければならない。作戦3は、様々な出来事が時間や空間を変えて起こっていく本に適している。作戦5は、多数

表5 『読書へのアニメーション』小学生向き作戦一覧

3 いつ? どこで?	36 物語ではそう言ってる?
4 何を言いたい?	39 何のために?
5 いる? いない?	41 なぞなぞを言って、説明するよ
7 どんな人?	42 わたしの言葉、どこにある?
8 にせもの文	49 だれが、だれと?
9 だれのことを言ってる?	50 どこですか?
10 つかまえるよ!	51 何かの役に立つ?
11 これが私のつけた書名	52 今度は私の番
13 誤植	54 だれが、だれに、何を?
14 ブルル	57 俳句で遊ぼう
25 チームで遊ぼう	59 それ、本当?
30 何てたくさんものがあるんでしょう!	60 ばかだなあ!
31 どうして?	63 一緒のほうが、うまくいく
32 どれが本当の話?	66 舌がもつれる
35 その前に何が起きた?	67 この詩が好き

M・M・サルト、宇野和美訳(2001)『読書へのアニメーション—75の作戦—』柏書房より

の人物が登場し、主役・準主役だけではなく、個性のある脇役が様々な場面でそれぞれの役割を果たすことによって物語が進行するような本に適している。子どもたちは、予め本を読んでおいて、その作戦に参加する。作戦3では、時間と場所をとらえながら読書することを学習する。作戦5では、様々な登場人物に目を向けて、登場人物を通して物語が進行していくことを楽しみながら読書することを学習する。こうして、複数の作戦を繰り返しながら、読書に必要な能力を身につけていけるようになっていく。

「読書へのアニメーション」を実施する際には、まず本の難易度が子どもに合っていることが前提である。さらに、同じ作戦を続けて繰り返すことがないように配慮する必要もある。なぜなら、子どもたちは、前に行った作戦を意識しながら、本を読んできている。様々なタイプの本に出会い、違う作戦を通して、子どもたちは、読書に必要な様々な能力を身につけることができるからである。

表1は平成18年度の、表3は平成19年度の文学系図書を用いた「読書へのアニメーション」の実施一覧である。子どもから見て、同じ作戦・同じ本を扱わないよう配慮している。「読書へのアニメーション」では、子ども全員に1冊ずつの本が必要である。今回は、教員研修事業の実験授業として、40冊ずつの本を購入することができた。子どもは予め本を読んでこななければならないため、作戦実施の1～2週間前に配本しておく必要があった。同じ学年では同じ本を原則として用いたが、日程の都合上、異なる本にせざるを得ない場合があった。平成18年度は特に、作戦に合ったカードや教材の開発を試行錯誤的に行ったため、様々な本になったところがある。さらに、卒業研究の一環として、同じ本でも訳の違いによって、子どもの反応にどのような違いがあるかどうかを見るために、違う訳による同じ本を別のクラスで扱ったこともあった（『エーミールと探偵たち』）。

平成19年度は、平成18年度の実施に基づき、改善を行った。40人近い学級で作戦を行うことは時間的に無理があり、作戦に使用するカードに書く問いの作成でも困難な点があった。そこで、平成19年度には、1クラスを2つに分けて、同じ作戦を同時に行った。こうすることで、カードには本当に適切な問いだけを載せることができ、時間的な余裕を持つての実施が可能となった。

## (2) 図鑑の指導（3～6年、非文学①）

非文学の読書指導の依頼があった時、1冊は図鑑にしようと考えた（表2、4参照）。なぜなら、図鑑は一般的に調べ学習に必要なものとされているが、図書館利用指導の一環として触れられる程度で、正当に読書指導として扱われることが少ないからである。また、図鑑は子どもたちが日常の中で頻繁に触れるとよいもので、調べる以外にも楽しんで読めることを指導したいと考えたからである。さらに、小学校3年生と6年生では、図鑑に対する認識が異なっており、当然であり、繰り返し指導していくことが重要である。そこで、各学年に適し

た図鑑の指導の在り方を模索してみた。

まず、小学校3・4年生では、図鑑というものがあり、そこにはいろいろな絵があって、楽しいのだということが分かればよい。そこで、小学館の図鑑NEOの『動物』を使って、次のような授業を行った。なお、この場合の動物とは哺乳類のことである。

- ① 1人1冊、図鑑を配布する。
- ② 動物とは何かについて触れる。
- ③ 知っている動物の名前をカードに書かせる。
- ④ その動物が図鑑に載っているかどうかを見させる。
- ⑤ 索引の存在と使用方法を教える。
- ⑥ ページをめくらせ、面白い動物がいたら、報告させあう。

この段階では、能率よく調べられるということよりも、多くのページをめくって、図鑑に面白い動物がたくさん載っているのだということを楽しめればよい。

5・6年生では、図鑑を使いこなすことを目的とする。同じシリーズの『植物』を取り上げた。授業の流れは次のようになった。

- ① 1人1冊、図鑑を配布する。
- ② 図鑑を一通り見させる。見返し、目次、各ページ、各項目の表示の仕方、巻末の発展ページの読み方、索引の使用の仕方を確認する。
- ③ 「わたしたちの学校じまん」のページを参考に、学校内の植物を書きださせる。(班ごとの作業)
- ④ 索引を使ってその植物がどのページに載っているかを見させ、分類、植生などを調べさせる。(班ごとの作業)

### (3)クイズづくりを用いた知識の本の読書指導(3年・非文学②・非文学③)

非文学の読書のうち、知識の本の読書は生涯にわたって重要であるが、その指導法が確立しているとは言い難い。特に低年齢の子どもたちに対する知識の本の読書指導は、良い本の探し方を含めて、研究の余地がある。

本実践で取り上げたのは、『イヌの大常識』(ポプラ社)である。これは、4年生でも用いる「これだけは知っておきたい」大常識シリーズの1冊である。この本は、イヌについての知識を百科事典的に編集したもので、イヌの「からだ」と能力「習性ときもち」「おいたちと種類」や、イヌが行っている仕事、有名なイヌについての知識などを載せている。小学生に親しみを持たせるように、わかりやすい図解やマンガの挿入など様々な工夫がこらしてある。今回注目したのは、巻末に設けられた「イヌの達人度チェック!」というクイズのページである。これは、本を読んだ子どもたちが、どれくらい本の内容をつかんだのか、クイズ形式でチェックをするというものである。例えば、「イヌに食べさせてはいけない食べ物はどれ? 1パン 2牛肉 3タマネギ」と言っただけである。さらには、各ページのフッターのところに、三択のクイズが設けられている。

たとえば、53 ページには、「イヌはどうして自分のしっぽを追いかける？  
1 動くので気になる 2 しっぽがかゆい 3 しっぽを食べようとしている」というクイズが出ていて、次の 54 ページのところに、正答と解説が出ている。この形式のクイズを使って、子ども自身が「本を読んでクイズを作る」「本を読んできて（他の子どもが作った）クイズに答える」という活動を行うことにした。

授業の進め方は以下の通りである。

#### 〈1 時間目〉

- ①全員に 1 冊ずつ本を配布する。
- ②帯、口絵の写真、目次などを読みながら、本の性質、特徴をつかませる。
- ③15 分ほど好きなページを自由に読む時間を与える。
- ④巻末の「イヌの達人度チェック!」、フッターのクイズを紹介する。
- ⑤次回（1 週間～2 週間後）に『イヌの大常識』を用いてクイズ大会を行うこと、それまで本は貸しておくので自由に読んで良いことを伝える。
- ⑥本を読んで、読んできた人が答えられるクイズを、「イヌの達人度チェック!」などを参考にしながら、三択形式で作成させる。（図 1 のワークシートを利用する。）
- ⑦早く作成した子どもには、2 問目を作成させる。作成が終わったら、自由に『イヌの大常識』を読ませる。

#### 〈2 時間目〉（1 時間目の 1 週間～2 週間後）

- ①1 時間目の後、家庭学習の形で、『イヌの大常識』を読んでいるが、確認のために、読みなおす時間を 10 分間とる。
- ②前回子どもたちが作成した問題の中から、良いものを 10 問選んで出題する（図 2 に例を示す）。
- ③答合わせをしながら、全員で本を読みなおす。

この実践で注意したことは、実際に本を読む時間を多くとるということである。子どもは、1 時間目の③や、2 時間目の①など、自分のペースで本に向かう時間を確保している。また、2 時間目の答合わせの際にも、単に答を言うのではなく、答の載っているページ全体を読みなおさせて、本の中でそのページがどのような位置付けになっているかを確認させるようにした。

非文学の 2 時間続きの授業は、1 時間目と 2 時間目の間を 1 週間から 2 週間あけることで、その本をじっくり読む時間を家庭学習の中にとる仕組みを持たせた。特に、1 時間目に読み方や読む方向性を示すことで、2 時間目までどのように読めばよいか明瞭になっていることが、この実践の特徴である。

#### (4) 紹介を前提に読ませる知識の本の読書指導（4 年、非文学②・非文学③）

4 年生で使用したのは、3 年生の『イヌの大常識』と同じポプラ社の「これだけは知っておきたい」大常識シリーズの本である。このシリーズは、ことわざ、動物、からだ、古代文明、恐竜、新撰組、ノーベル賞、百人一首、昆虫、四字

イヌの大常識(だいじょうしき) クイズ



( ) 年 ( ) 組 名前 ( )

●クイズの例 なぜイヌは、何かをかみたがるのだろうか。

せんたくし (1) おなかですいているから。

せんたくし (2) 野生で生活していたころ、えものの皮をかみやぶったり、骨をかみくだいたりしていたから。

せんたくし (3) だろほうをふせぐ力を、人間に見せようとしているから。

せいかい (2) せいかいがついているページ 44ページ

●クイズ1

せんたくし (1)

せんたくし (2)

せんたくし (3)

せいかい せいかいがついているページ

●クイズ2

せんたくし (1)

せんたくし (2)

せんたくし (3)

せいかい せいかいがついているページ

図1 『イヌの大常識』のクイズづくりで用いるワークシート

イヌの大常識(だいじょうしき) クイズ



(3) 年 (3) 組 名前 ( )

せいかいだと思うものに、○をつけてね。

●クイズ1 つぎのうち、獣猟犬(じゅうりようけん)、鳥(とり)がいの動物の狩(う)りを助けるイヌ(いぬ)でないのはどれ?

(1) ブルドック (2) アフガン・ハウンド (3) ビーグル

●クイズ2 警視総監章(けいしそうかんしょう)をとったイヌの名前は?

(1) バリー (2) アルフ (3) ポチ

●クイズ3 イヌの体調(たいちよう)が悪いときは、どこをみればわかる?

(1) 鼻(はな) (2) 耳(みみ) (3) しっぽ

●クイズ4 イヌがよく穴(あな)をほるのはどうして??

(1) てきから見つからないようにするため  
(2) 食べきれないたべものをうめるため  
(3) 人(ひと)のでつだいをするため

●クイズ5 イヌはどうしてせまいところに入りたがるか?

(1) ひろいところがきらいだから  
(2) せまいところがねるくせがついたから  
(3) まもられているような気がしてあんしんだから

●クイズ6 ふだん耳(みみ)が立(た)っているイヌの耳(みみ)がたれているときは、どんなときですか?

(1) かなしいとき (2) おこっているとき (3) うれしいとき

●クイズ7 イヌが仮病(かりびょう)をつかうときはどんなとき?

(1) やさしくしてほしいとき  
(2) きらいな食べ物(たべもの)がでたとき  
(3) 散歩(さんぽ)に行きたくないとき

●クイズ8 イヌの一生(いっせい)って、何年(なんねん)ぐらいなの?

(1) 二〇年(にじゅうねん)~二七年(にじゅうしちねん) (2) 一二年(いちにじゅうねん)~一五年(いちごねん) (3) 五年(ごねん)~一三年(じゅうさんねん)

●クイズ9 イヌがかみなりの音(ね)をこわがるのはどうして?

(1) とてもこわいものがくる知らせだと思(おも)うから  
(2) おへそをとられてしまうから  
(3) 耳(みみ)がわるくなってしまうから

●クイズ10 イヌがさわられるときやなところは?

(1) 耳(みみ)のうしろ (2) おなか (3) 胸(むね)

図2 平成19年度3年3組のクイズ大会で用いたプリント

熟語、オリンピック、天気、妖怪、お金、漢字、源義経、乗りもの、発明・発見、古代日本、宇宙、地球、植物、地震、イヌ、戦国大名、記号・マーク、数、忍者、まんが・アニメ、サッカー、魚、食べもの、ネコといった、さまざまな物事の知識を扱っている。4年生以上の読みがなに対応しているということも、このシリーズを用いた理由の1つである。4年生という時期は、一応文章が読めるようになり、さまざまな本を読むことによって、知識や興味を広げていくべき時期である。そこで、子ども一人ひとりが違う本を読んできて、それを班や学級のメンバーに紹介する（ブックトークする）活動を構想した。

授業の進め方は次の通りである。

#### 〈1時間目〉

- ①4人の班（学級によっては5人ということもあった）を作る。
- ②各班に人数分の本を配布する。この実践を行った時に、このシリーズは33巻まで出ていたので、クラス用の本（40冊）の中には、2冊同じタイトルのものがあった。各班で同じ本が重ならないように注意して配布した。
- ③班で、自分が担当する本を決めて、読み始める。まず、筆者が、シリーズの共通の構造である本の表紙、見返し、目次などを示しながら、それぞれの本を読むように促した。
- ④ワークシート（図3）を用いて、本を紹介する時に重要なポイント（本の要約・長所・短所・視覚的な工夫）をつかみながら読むことを理解させる。
- ⑤各自、ワークシートに書かせながら読ませる。ワークシートに書き込むタイミングは、本を読み終わってからでも、読みながらでもよしとした。次回までに、ワークシートを完成させることにし、困っている子どもには、机間指導で対応した。

#### 〈2時間目〉

- ①前回と同じ班を作る。
- ②班ごとに、それぞれの担当した本を、ワークシートをもとに紹介させる。
- ③班ごとに、友だちの紹介した本の中から、最も読みたい本を選ばせる。
- ④一番人気のあった本を学級で紹介することにする。その場合にどんな紹介にすればよいか、ワークシートやその本を担当した子どもの紹介をもとに、工夫させる。
- ⑤各班から2人ずつ出てきて、2人で一番人気だった本を紹介させる。2人でどのような紹介をするのかは自由としたところ、1人が本について説明する係で、もう1人が本を持ってページを見せる係となる場合、1人は最初に担当してきた子どもが本の紹介を細かくし、もう1人がその本に対する期待・読みたいと思う理由を述べる場合などの形で紹介が行われた。
- ⑥各班から上がってきた本のうち、自分が最も読みたい本の投票をさせる。
- ⑦このシリーズを1週間学級文庫に貸すことを伝えて授業を終わる。

この方法の特徴は、多読の保証である。普通のブックトークを用いた読書指

### 知識(ちしぎ)の本を読む

☆本を読んでこのプリントを書き、来週持ってきてください。

( ) 年 ( ) 組 名前 ( )

### の大常識



1. 要約(ようやく) …この本は、こんな本だ。
2. 長所(ちょうしょ) ……この本のよいところは、ここだ。
3. 長所の理由(りゆう) ……なぜなら、…だからだ。
4. 短所(たんしょ) ……この本のよくないところは、ここだ。
5. 短所の理由 ……なぜなら、…だからだ。
6. この本のなかで、絵・図・表がうまく使っているページは、ここだ。
7. うまい理由 ……なぜなら、この絵・図・表は…だからだ。
8. その他 ……何か書きたいことがあれば、どうぞ。

図3 知識の本を読むために用いるワークシート

導では、子どもたちは、本の紹介を聞いて、その本を読みたい気持ちになるが、実際に読む子どもは少数であることが多い。今回の指導では、まず1冊は、知識の本を読むことが保証される。知識の本を読むときには、何のために読むのかという目的意識が重要であるが、この授業では、次に班員に紹介するという明確な目的がある。そして、どのようなポイントをつかめば紹介できるのかも、ワークシートを書く作業を通して実感できる。長所だけではなく短所も取り上げる理由は、やがて本を批評することができるようになる方向へつなげていこうとしているからである。また、絵・図・表といったビジュアル・コンテンツを意識させるのは、知識の本を読んでいく際に大きな手掛かりになることを知らせるためである。そして、子どもたちは、自分の本の紹介のほかに、班の友だちの紹介(3人分)と、他の班のブックトーク(8~9班分)を聞くことになる。これらの紹介を聞きながら、自分の読みたい本を決める。こうして選ばれた本は、漫然と聞き流したブックトークに比べて、かなり読みたいという気持ちが高くなっており、手にとる可能性が高くなる。授業後1週間、その本を学級文庫においておくことで、本を読む機会が保証されるのである。

#### (5)伝記の要点をおさえて読ませる指導(5~6年、非文学②・非文学③)

5~6年生の活動では、伝記を扱うこととした。たくましく生きぬいた先人の生き方・業績・仕事などを知ることは、混沌とした現代社会の中で自分の生

き方を考える上で重要であるからである。

この活動では、まず、伝記とは何かをとらえることを重視した。伝記とは、何か人類に意味のあることを行った人物（偉人）の一生を表したものである。したがって、伝記を書かれるに足る業績があるわけで、その業績をとらえることが最も重要である。そして、その人物はどのようにしてその業績を残すことができたのか、幼い時代や大人になってからの性質や問題意識や仕事などをつかんでいけばよいことになる。また、その業績が生まれた背景として、時代や国などをおさえておくことも必要である。このような伝記のとらえ方は、どのように伝記を読めばよいのかを示唆することになる。すなわち、業績や業績を産むに至った幼い頃や大人になってからのエピソード、その人物の背景などをおさえて読めばよいということである。さらに、その人物に対しての個人的印象や、同時代の他の人物のことなどを、オプションとして書きこめるような、ワークシート（図4）を作成した。

○この人が子どもの時、どんなことがありましたか。	◎誰についてのどんな本を読みましたか シリーズ名と番号・出版社  人物名（書いた人の名前）	○この人は、何をしたことで有名ですか。	☆伝記を読もう☆  年 組 番 名 前
○この人が大人になってから、どんなことがありましたか。		○何時代（何年～何年）に生きていましたか。 ○どこの国の人ですか	
○この人について、かっこいいなと思ったり、すてきだなと思ったりしたところはありましたか。		○同じ時代の人で、有名な人は出てきましたか。 	

図4 伝記を読むために用いるワークシート（5年生用）

5年生の実践では、このように伝記の要点をおさえやすい素材を探した。ポプラ社の「おもしろくてやくにたつ子どもの伝記」シリーズは、最適な素材である。この本は、単純に時系列で伝記が書いてあるだけではなく、さまざまな工夫がこらされており、ワークシートの書きこむ要点をとらえやすくなっている。たとえば、普通縦書きの本は左開きになっているが、このシリーズの本は反対側の裏表紙も表紙になっており、右開きで横書きの紙面があって、反対側からも読めるようになっている。『ナイチンゲール』を例にとると、その横書

きのページには、次のようなことが書いてある。

- ・ ナイチンゲールってこんな人（生年月日、生まれた場所、顔の特徴、性格、行ったことを1ページにまとめたもの）
- ・ はやわかり ナイチンゲール（何歳の時に何をしたがが、図式化して分かりやすく示されたもの）
- ・ ナイチンゲール資料館（ナイチンゲールの家族や、ナイチンゲールに関係ある場所・建物の写真、当時の社会情勢の説明と写真）
- ・ ナイチンゲールものしりクイズ（エピソードを三択のクイズにしたもの8問）
- ・ フローレンスと家族（家族の性質や家族との関係をうかがわせるエピソード）
- ・ ナイチンゲールがとくいだったこと
- ・ クリミア戦争とナイチンゲール
- ・ 病院とナイチンゲール
- ・ ナイチンゲールをささえた人びと
- ・ 赤十字ってどんなもの？
- ・ 現代の看護婦さん
- ・ 年表でみるナイチンゲールの生涯
- ・ さんこうにした本など

これらのページを必要に応じて活用することは、伝記を読む時の先行オーガナイザーを意識して読むということを学ぶことができる。

1時間目には、これらの伝記のうちの1冊について、ワークシートに書くことを示しながら、伝記を読む活動を行った。時間内に読み終わらない子どもが多かったので、それぞれの本を、1時間目の授業後1週間～2週間、貸し出すこととした。

2時間目は、より柔軟性の高い授業の展開となった。ワークシートの書き方が分からなかった子どもに、個別指導を行った。ワークシートを書き終えた子どもにはこれ以外にも、講談社火の鳥伝記文庫、小学館学習まんが人物館などの伝記を用意したので、1時間目に扱った本と同じ人物を扱ったほかの伝記を読む子もいれば、全く他の人物の伝記を読む子もいた。また、2時間目終了後1週間貸し出すことにした。つまり、5年生にとって、伝記とは何か、伝記はどのように読めばよいのかを知った上で、1冊の伝記をワークシートにしたがって読み、さらにもう1～2冊違う伝記を読むという活動になった。

6年生で扱った伝記は、「学研まんが人物日本史」シリーズである。これは、6年生は社会科で日本史を学んでいることから、授業中に学習したことに関連した知識の本を読ませることを意識している。さらに、マンガを読書指導の素材として位置づけたいという意図もあった。6年生に用いたワークシートを図5に示す。これは、5年生のワークシートとほとんど同じ構造であるが、学習時に教科書で学んだことを意識させる欄が設けられている。また、日本の歴史上の人物に限定されることから、どこの国の人なのかを問う欄を削除している。

<p>○この人が子どもの時、どんなことがありましたか。</p>	<p>◎誰についてのどんな本を読みましたか シリーズ名と番号・出版社</p> <p>人物名（書いた人の名前）</p>	<p>○社会科の教科書（6年上）には、この人のことは出てきますか。（出てくるなら、何ページにどのように出てくるか書く。なければ「なし」とする。）</p>	<p>☆歴史上の人物の伝記を読もう☆</p> <p>( )年( )組( )番名前( )</p>
<p>○この人が大人になってから、どんなことがありましたか。</p>		<p>○この人は、何をしたことでも有名ですか。</p>	
<p>○この人について、かっこいいなと思ったり、すてきだなと思ったりしたところはありましたか。</p>		<p>○何時代（何年～何年）に生きていましたか。</p> <p>○同じ時代の人で、有名な人は出てきましたか。</p>	

図5 伝記を読むために用いるワークシート（6年生用）

6年生の場合にも、1時間目にワークシートの説明をして、担当する1冊をワークシートに書き込みながら読む作業を進め、1～2週間の貸出ののち、2時間目にワークシートを提出させた。2時間目をワークシート発表に当てたクラスもあったが、結局質疑応答など発表以上の発展が望めなかったため、他のクラスでは同じ人物もしくは他の人物の別の伝記を読む活動になった。

この実践の特徴は、伝記の読み方をワークシートで明確にしつつ読ませるという読書指導を提案していることである。従来の国語科教育において伝記の指導をする時は、教科書教材などの短い文章を読解指導をし、人物の生き方やエピソードに関する人物の気持ちに焦点を当てて読ませることが多かった。しかし、今回の場合は、分厚い本を用いて、業績や背景など感情的なものよりも事実を確認しながら読むことに専念させている。

#### 4. 平成18年度の活動の事情と平成19年度の改善点

##### (1)平成18年9月実施の文学系の図書の読書活動

この読書活動は平成18年度から開始された。ちょうどその時期は、筆者が新潟大学に赴任し、研究室（読書指導ゼミ）を立ち上げた時期と重なる。このゼミでは、国語科教育に関連して、あるいは必ずしも国語科教育の範囲にとどまらず、特に読書指導についての研究を進めており、所属した学生に読書指導力のつく活動を行わせたいと考えた。そこで、9月に、学生に見附小学校での読書活動の授業を計画し実施させた。

9月という時期を選んだのには、3つの理由がある。1つ目は時期的な問題である。9月は大学では夏季休業中で授業がなく、小学校では授業を実施している。2つ目は、小学生にとっての行い易さである。9月は文学②の活動にあたり、小学生にとっては「読書へのアニメーション」を使った読書活動を一度は体験していて、学生の指導であっても安心して取り組めるという利点がある。3つ目は、大学生側の事情である。「読書へのアニメーション」は、作戦という構造化された手法を用いる。どのような手順で活動を進めていくかが、明瞭に決められている。したがって、指導方法に未熟さが出ず、学生はどの本を選ぶか、どのような教材（カード）を作るかに、力を注ぐことができる。事前にゼミでその本とカードをチェックし、学生相互の模擬授業で議論を重ねれば、小学生に迷惑をかけるような大きな失敗は防ぐことができる。

このようにして行われたのは、表1の文学②の3年2組『エルマーのぼうけん』（作戦51何かの役に立つ?）、3年3組『王さまばんざい』（作戦7どんな人?）、4年2組『みどりのゆび』（作戦36物語ではそう言ってる?）、5年2組『大どろぼうホツェンプロッツ』（作戦39何のために?）、5年3組『ピクトルの新聞記者大作戦』（作戦5いる? いない?）、6年2組『夏の庭』（作戦9だれのことを言ってる?）、6年3組『オ・ヤサシ巨人BFG』（作戦54だれが、だれに、何を?）である。学生たちは、7月までのゼミで本を選び作戦を模擬授業として行い、教材カードを修正し、9月の実施に臨んだ。また、自分が実施した授業の他にも3つの授業を見学し、相互批評をしあった。以上のように、この取り組みは大学側からすれば、教員養成を一般的な教育実習とは異なって専門的な領域について行うことができる貴重な場となった。

## (2)平成19年1月～2月実施の卒業研究の実験的授業

表1の文学③では、『エーミールと探偵たち』の高橋健二訳・池田香代子訳を用いている。これは、平成19年度の卒業論文「翻訳の違いと読者の反応の研究— Emil und die Detektive 《を中心に—》」を書いた学生の卒業研究にご協力いただく形になったものである。翻訳の違いによって、読者の反応が変わるかどうか、同じ学校の異なる学級での反応を複数見てデータを収集することができた。最初から『エーミールと探偵たち』は、「読書へのアニメーション」を行うのによい本であるので、見附小学校の読書活動で用いるつもりであった。この研究を行った学生は、(1)の授業の経験を経ており、「読書へのアニメーション」に対する十分な理解があり、実践する能力も備えていた。このようなことができたのは、この読書活動が見附小学校の学校全体の取り組みとなっているからであった。

## (3)平成18年度実施の非文学②③の授業

平成18年度の実施においていくつか実験的な取り組みを行ったが、そのう

ち1つが2時間続きの非文学の読書指導の開拓である。前述のように、本実践は、「PISA型読解力を育成する読書指導ができる現職教員研修プログラムの開発と実践」の実験的授業という意味を持っていた。従来の我が国の読書指導は文学中心であり、読んだ後に表現させる場が読書感想文を除いてはほとんど行われてきていなかった。PISAで問題となっている非連続型のテキストを含む素材（特にこの場合非文学の本）をどのように読ませるか、またそのテキストのジャンルや特性に応じて、読んだことをどのように表現するかといったことが、新たな読書活動の課題となってきたのである。非文学②③は、このことを踏まえて行った実験的授業であり、その成果を現職教員研修のための読書指導ワークショップで活かすことを前提として行われた。たとえば、図3のワークシートの「6. この本のなかで、絵・図・表がうまく使っているページは、ここだ。」や「7. うまい理由……なぜなら、この絵・図・表は～だからだ。」は、非連続型テキストを意識している。5・6年生の伝記を読む活動で使用した図4・5のワークシートも、伝記を読んで得たことを表現するとどうなるかということをも具体化したものである。これらの実践は、使用した図書と一緒に、新潟大学教育人間科学部が行った読書指導ワークショップで紹介された。

#### (4)現代GPの教材化（ビデオ録画）

このような実践を経て、平成18年度の末ごろには、見附小学校における読書活動は、ひとつのモデルケースとして、十分分析に耐えうるものとなっているという確信があった。そこで、文部科学省現代GP（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）「教員養成のためのモジュール型コア教材開発」（東京学芸大学、福島大学、埼玉大学、上越教育大学、琉球大学）におけるプロジェクトに、この活動を紹介することにした。このプロジェクトでは、教員養成系の大学が授業等で用いることができるコンテンツをインターネットの形で配信するというものである。見附小学校で行った文学③の授業、4年1組「こちらマガーク探偵団」（作戦36物語ではそう言ってる？）と、5年1組「エーミールと探偵たち」（作戦54だれが、だれに、何を？）をビデオ録画し、コンテンツ化した。

#### (5)平成19年度への改善点

以上のような実践をふまえ、平成19年度では、2つのことを改善した。

1つ目は、文学系の読書指導で用いた「読書へのアニメーション」の手法についてである。「読書へのアニメーション」は、作戦によって適正人数が異なるが、基本的に1学級34名～38名は、「読書へのアニメーション」を行うには人数が多すぎ、時間も不足する傾向があった。さらには、低い学年では集中力が途切れ騒がしくなって、発表者の声が通らないという問題もあった。そこで、平成19年度は、アニメーションを行うアニメドールを2名配置することにした。筆者と学生である。その学生は、読書指導を卒業研究のテーマとしており、読

書指導実践にも経験があった。同じ本について、同じ時間帯に、2か所で同じ作戦のアニメーションを行った。このことにより、同じタイプの問いをカードとして作成する場合（例「作戦31 どうして?」、「作戦54 だれが、だれに、何を?」）、相応しくない問いを人数に合わせて無理に捻出す必要がなくなり、よりよい問いのみをカードとすることができるようになった。さらに、時間不足や、子どもの飽きを回避することができた。時間的に余裕を持って、子どもの反応を引き出すことが可能になり、声が通らないという問題も解決した。

2つ目は、本と作戦の選択である。さらには、平成18年度の実践で、やや難しいと思われた『みどりのゆび』を6年生の図書にすることにした。また、平成19年度で子供たちが読んだ図書や作戦を2度実施しないように注意して、表3及び表4の図書・作戦を決定した。

これらの改善点を行い、平成19年度は、文学3回・非文学3回、合計5冊の本を読書させるという指導の形が、出来上がった。

## (6)平成20年度への継続

平成20年度は、筆者の産休ということもあって、新潟大学から講師を派遣することはできない。しかし、平成18年度・19年度で使用した図書及びカード等の教材を新潟大学から見附小学校に貸し出し、3～6年の学級担任の教師が同じ活動を継続することになった。学級担任の多くは、2年間の読書活動の実施を見、どのような活動を行えばよいのか、十分に理解ができています。実施の方法については、その手順を示したマニュアルなどをこちらで作成し、それを見ながら担任でも授業が進められるようにする。これで、2年間、大学側で開発した読書指導の方法を、学級担任が行えるように、シフトすることになると考えている。

## 5. アンケートの実施とその結果

それぞれの年度の6回の活動が終了した時点で、児童に資料1、3年以上の学級担任の教師に資料2のアンケートを実施した。結果を示して、考察する。

### (1)読書習慣

表6～表8は、読書習慣（読書量）に関する項目（1-①、②、③）を取り出したものである。表6及び8のように、学年が上がるにつれて、読む冊数が減っている傾向が見られた。しかし、表7のように、実際の読書時間はさほど少なくなっていないので、ある程度定期的に読書をする習慣は身につけているということができる。

**表 6 1か月に読んだ冊数（冊）**

	3年	4年	5年	6年
平成18年度	8.98	7.99	6.06	3.04
平成19年度	14.55	5.89	6.68	3.71

**表 7 1日の読書時間（分）**

	3年	4年	5年	6年
平成18年度	25.52	24.15	28.70	27.27
平成19年度	21.44	22.11	21.49	22.70

**表 8 1か月に借りた冊数（冊）**

	3年	4年	5年	6年
平成18年度	4.02	4.63	3.96	1.79
平成19年度	9.07	3.40	3.75	1.99

## (2)配られた本の読書

本実践では、読書する時間そのものを、授業中にとることはできなかった。そこで、アンケートでは、活動に入る前（文学系の図書については、活動の始まる前1～2週間、非文学については、非文学②と非文学③の活動の期間）に実際に読書をしてきたかどうかについて、質問をした（設問2）。配られた本を、「ぜんぶ読んだ」という児童には5、「ほとんど読んだ」を選んだ児童には4、以下、「半分（はんぶん）よりも多く読んだ」には3、「少しだけ読んだ」には2、「ほとんど読まなかった」には1として、平均を出した。これをここでは、読書の遂行度と呼ぶ。遂行度は表9の通りである。

**表 9 読書の遂行度（5全部読んだ 4ほとんど読んだ 3半分よりも多く読んだ 2少しだけ読んだ 1ほとんど読まなかった）**

	3年	4年	5年	6年
平成18年度	4.32	4.07	4.10	4.01
平成19年度	4.10	4.38	4.31	4.09

この表によると、ほとんどあるいは全部読んだと回答していることが分かる。

表 10 読書の遂行度と場所を選んだ児童の人数のクロス集計

18年度 3年	遂行度	自宅で	学校で
A	4.71	3	35
B	4.19	0	38
C	4.07	0	36

19年度 3年	遂行度	自宅で	学校で
A	4.61	24	20
B	4.34	4	28
C	3.91	3	28
D	3.53	1	28

18年度 4年	遂行度	自宅で	学校で
A	4.45	21	10
B	4.00	23	32
C	4.00	8	23
D	3.84	22	9

19年度 4年	遂行度	自宅で	学校で
A	4.58	16	20
B	4.33	5	31
C	4.23	5	30

18年度 5年	遂行度	自宅で	学校で
A	4.50	16	21
B	4.23	5	26
C	4.00	13	16
D	3.52	16	18

19年度 5年	遂行度	自宅で	学校で
A	4.66	8	24
B	4.30	12	19
C	4.24	22	13
D	4.03	12	20

18年度 6年	遂行度	自宅で	学校で
A	4.29	26	8
B	4.28	24	11
C	4.16	23	10
D	3.30	15	18

19年度 6年	遂行度	自宅で	学校で
A	4.74	22	25
B	4.50	13	24
C	3.94	9	22
D	3.17	13	18

読んだ場所については、大多数の児童が、自宅か学校であると回答した。そこで、読んだ場所が読書の遂行度に関係するかをさぐってみることにした。表10は、遂行度と読んだ場所のクロス集計をしたものである。学校で読ませるなどの配慮は学級単位で行われるので、学級別に集計してみることにした。各学年の学級で読書の遂行度が高い順に並べ（A～D）、それぞれ、自分あるいは学校で読んだと答えている人数（延べ人数）を並べた。厳密ではないが、自宅で読んだとする児童がいる人数が多い場合、読書の遂行度は多少高くなるようである。

誰と一緒に読書したかを尋ねた問い「くばられた本をだれと読みましたか」には、どの学年でもほとんどすべての児童が、「一人で読んだ」を選択した。

### (3)読書活動をやってみての感想

設問3は、読書活動をやってみて、児童がどのような感想をもったか尋ねるものである。「そう思う」を5、「少しそう思う」を4、「どちらともいえない」を3、「あまりそう思わない」を2、「そう思わない」を1として、学年の平均値を表11に示す。

表11 読書活動をやってみての感想

	平成18年度				平成19年度			
	3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年
①本を使って遊んで楽しかった	4.45	4.39	4.36	3.82	4.05	4.10	4.30	4.30
②一人で本を読むよりも楽しかった	4.30	4.15	4.32	3.72	3.91	3.99	4.29	4.41
③一人で本を読むよりも内容がよく分かった	4.44	4.13	4.26	3.82	3.80	4.21	4.37	4.34
④前よりも本を読んでみたくなった	4.43	4.18	4.17	3.78	3.82	3.94	4.17	4.05
⑤前よりも学校で図書館に行きたくなった	3.97	3.08	3.58	3.01	3.42	3.52	3.69	3.20
⑥また本を使って遊んでみたい	4.24	4.34	4.28	3.68	3.77	3.96	4.30	4.18

どの学年でも、「①本を使って遊んで楽しかった」「⑥また本を使って遊んでみたい」で「そう思う」を選んだ児童の割合が高くなっている。「②一人で本を読むよりも楽しかった」「③一人で本を読むよりも内容がよく分かった」は、集団での読書の意義に関するものであるが、これらも比較的高い割合を出している。設問の2-③でほとんどの児童が、実際には一人で読書をしてきていることを考えると、一人で読書をしてきながら、アニメーションを体験したり、ワークシートを使って読んできたことを発表する機会を与えられて、そのことを楽しいと感じたり、より内容理解が進んだと感じたということを示している。一方で、「前よりも学校で図書館に行きたくなった」の割合は低かった。今回の読書活動が、学校図書館に向かう直接の動機には、なりにくかったと言えよう。

#### (4)本と活動

アンケートでは、読んだ5冊の本について、どの本が面白かったか、あるいは難しかったかを尋ねた(設問4-(1)(2))。また、どの本を使った活動が面白かったか、あるいはつまらなかったかを尋ねた(設問4-(3)(4))。一方教師には、どの本を用いた活動がよかったか、あるいはよくなかったかを尋ねた(設問1、3)。結果は、表12のとおりである(なお、教師の回答結果と合わせて考察するために、教師にもアンケートを実施した平成19年度のみ取り上げている)。本や活動のデータをとるために、「5冊のうちどれが」という尋ね方は正確ではないが、答えやすいと考え、このような聞き方をすることにした。

まず、3年生では、『ひとまねこざる』が面白い本として人気があった。『ひとまねこざる』は活動の方も、面白いと感じた児童が多かった。『エルマーのぼうけん』も人気があったが、絵本ではなく少し分厚い本ということで、難しいと感じる子供も多かったようである。最も多くの児童が難しいと感じたのは、『イヌの大常識』である。しかし、『イヌの大常識』や『エルマーのぼうけん』は活動自体は面白いと感じる児童が多かったのである。これは、多少難しい本でも、活動の組み方によっては、児童に面白いと感じさせる読書活動を行うことは可能であるということである。特に『イヌの大常識』はクイズ作りを行ったのであるが、クイズを作る方にも、答える方にも面白さを感じる児童が多かった。一方で、図鑑は、児童にとって難しく、活動自身もつまらないと感じているようである。よくなかった活動として図鑑を取り上げた教師は、「時間がなく、内容をやりきることができなかったから。」と述べている。一方で図鑑をよかった活動としている教師は、「まず子どもたちが一番興味を持って、意欲的に取り組んでいたからです。また、図鑑の見方や調べ方がよく分かり、学習での調べ学習にも生きてくる活動だと思ったからです。」と述べている。時間のとり方を再考し、調べ学習につなげるような取り組みをさらに工夫していきたい。

4年生では、『はれときどきぶた』が本も活動も人気があった。教師にも評価されている。これは、平成19年度になって初めて加えた本であったが、成功したと言ってよい。難しかった本で、かつ、つまらなかった活動として『こちらマダーク探偵団』があがった。これは、本自体は推理小説風で面白いものであると思っていたが、登場人物が多くそれぞれの名前がカタカナで、主人公の母親を表すのにファーストネームではなく「〇〇夫人」という呼び方をするなど、難しく感じさせる要素がある。したがって、「作戦9 だれのことを言っている?」という登場人物の名前を答えさせるアニメーションでないほうが良かったかもしれない。この学年でも図鑑が難しい、つまらなかった、よくなかった活動としてあがっており、再考の余地がある。

表 12-1 3年生児童及び学級担任の本と活動に関するアンケート結果（人）

	ひとまね	びゅんび ゆんごま	エルマー のぼうけ	図鑑 (動物)	イヌの 大常識
児童 面白かった本	42	17	36	7	20
児童 難しかった本	0	0	29	24	64
児童 面白かった活動	30	6	28	7	35
児童 つまらなかつた活動	4	11	15	25	15
教師 よかつた活動	0	0	2	1	1
教師 よくなかつた活動	0	1	1	1	0

表 12-2 4年生児童及び学級担任の本と活動に関するアンケート結果（人）

	くまって	はれとき どき	マガー ク探偵団	図鑑 (植物)	大常識
児童 面白かった本	6	49	20	2	24
児童 難しかった本	0	1	60	12	28
児童 面白かった活動	5	54	10	4	14
児童 つまらなかつた活動	6	4	26	25	20
教師 よかつた活動	0	2	0	0	1
教師 よくなかつた活動	0	1	1	2	0

表 12-3 5年生児童及び学級担任の本と活動に関するアンケート結果（人）

	ルドルフ	大どろぼ う	いたずら おばあさ	図鑑 (植物)	伝記
児童 面白かった本	21	31	40	2	20
児童 難しかった本	4	25	12	22	51
児童 面白かった活動	18	21	29	14	14
児童 つまらなかつた活動	10	12	7	29	10
教師 よかつた活動	0	0	0	0	4
教師 よくなかつた活動	1	1	0	0	0

表 12-4 6年生児童及び学級担任の本と活動に関するアンケート結果（人）

	みどりの ゆび	オ・ヤサ シ巨人 ビクトル	夏の庭	図鑑 (動物)	まんが人 物日本史
児童 面白かった本	11	40	45	1	18
児童 難しかった本	35	9	60	0	6
児童 面白かった活動	5	9	59	14	12
児童 つまらなかつた活動	39	3	5	23	9
教師 よかつた活動	0	0	2	0	2
教師 よくなかつた活動	2	0	1	0	0

5年生では、『いたずらおばあさん』が、本も活動も面白かったと感じた児童が多かった。児童が面白かった活動として選んだものは、他の学年に比べて分散している。興味深いのは、51名もの児童が伝記を難しかった本であると述べているのに対し、学級担任の教師が4人とも、伝記を用いた活動がよかったとしている点である。よかった理由としては、「読後、伝記に興味関心を持った子が多かったから。」「子供が一番興味を持って、本を求めている姿が見られたからです。」「伝記の面白さを知り、自分から進んで読む子が見られた。」「伝記にとっても興味を持つきっかけとなり、どの子どももとても喜んで活動に取り組んでいました。」としている。すなわち、この実践は、伝記を読むきっかけとしてうまく働いたといえよう。1冊の伝記をワークシートをもとに読んだ後、発展的に好きな伝記を読ませたことも、よかったのではないだろうか。

6年生では、『夏の庭』が最も好まれた。今回の読書活動の中で、唯一、文庫本を取り上げたため、難しかった本だとした児童も60名いたが、この本の活動を面白かったとする児童も59名いた。この活動は、「作戦12前か？ 後ろか？」で、カードに書かれた文章（それは本から抜き出した数行）を児童全員で協力して、物語に出てきた順番に並び替えるというものである。もしも自分が分からなくても、他の児童と話し合いながら並び替えることができる。自分一人ができないことがあまり表面に出ないということもよかった理由と言えるであろう。これをよかった活動とした教師のコメントとしては、「本の内容が面白いとともに、子供同士が関わる読書活動だったから」「活動の中に子供同士のかかわりが多く見られたため。」と、やはり児童同士の関わり合いを評価していることが分かる。一方、こちらの意図に反して、あまりよい評価が得られなかったのが、『みどりのゆび』である。実はこの本は、平成18年度には、小学校4年生のクラスで取り上げた。しかし、その時に読みにくそうだったので、平成19年度は6年生で扱うことにしたのである。よくなかったとする教師の意見は、「子どもが本を読みきれていなかったため。（これは担任のせいです。）」「内容が理解できていない子が若干見られたことから、内容に難しさもあったのかなと思うから。（他にも、その子の取り組み方にも問題はあります。）」である。筆者自身はかなりよい本だと思って選択したが、あまり日本の子供にはなじまない本であるといわざるを得ない。内容的な確認を促していく「作戦35その前に何が起きた？」も、子供たちにとってはつまらない活動とうつったようだ。これは、本も活動も、今後は差し替えていったほうがよいと考えられる。伝記は昨年度児童が5年生だったときにも用いたが、今年度はマンガのものを社会科との関連を意識しながら用いた。難しいと感じる児童は少なく、教師も、「社会の学習で知っている人物のものがあったからだと思うし、マンガは読みやすいようだ。」「子どもたちが一番食い入るように読んでいたから。社会科の歴史学習とつなげることができたから」と、よかったようである。このように、5年で伝記の読み方を知り、様々な伝記に出会っていき、6年生ではマンガの伝記を取り上げるという形もよい形であるという手ごたえを得た。

### (5)子どもたちの変化

学級担任に対しては、読書活動を通して子どもたちにどんな変化があったかを尋ねている。次のような回答が得られた。

(3年)

- ・新しい読書の仕方や、読む時の意欲づけになったと思います。
- ・全員が同じ本を一斉に読むことで、本を読もうとする意欲が高まった。
- ・読書をする習慣が身に付いた。
- ・まず、よい図書にふれる機会をつくっていただき、毎回本が配られるのを楽しみにしている子が多かったです。また、図鑑の見方や調べ方を教えていただいたり、物語の中からクイズを出していただいたことで、熟読の大切さが分かったりした子が多くなりました。
- ・読書が好きになった子が増えたと思います。

(4年)

- ・同じような取り組みかただったので、子どもたちは予想を立てて内容を読むようになっていた。
- ・はれぶたの時ははれぶたの話題が多かった。
- ・集中する、アニメーション後は自分のこれまでの興味と違う本にも関心を持つ子もいた。

(5年)

- ・読む速さが上がりました。
- ・読むのを嫌がらなくなった。本の内容について話をする子が増えた。集中して読めるようになった。
- ・一冊の本を与えられることで、朝読書での集中力が増しました。また、「どこまで読んだ?」というコミュニケーションも見られるようになりました。
- ・読書は楽しいものだと思う子が増えていると感じる。

(6年)

- ・読書する時間が増えた。少なくとも読書活動があるときは熱心に読んでいる子が増えたと思う。
- ・学年のレベルに応じた内容、難易度のものを読むことができた。また、6年生レベルで・どの程度の本を読めばいいか分かったようだ。
- ・強制的でも、1冊読み終えた満足感や、読んでみると意外と、ストーリーなどが面白かったと感じたことなどから、本に興味を持ったようだ。
- ・もともと読書好きが多かったが、さらに増えた。

こういうアンケートの場合は、あまり否定的なことは書かないのが普通なので、いくらか割り引いて見る必要があると思う。しかし、これらの教師のコメントから、次の3点については、本実践の成果としてみることができよう。

- ①この読書活動がそれぞれの学年に応じた本の難易度を示したこと
- ②この読書活動が児童の普段の読書を促進するきっかけとして働いたこと
- ③同じ本を読むことで、児童同士のコミュニケーションを促したこと

これらの成果は、児童自身のアンケートに寄せられた自由記述（設問は、「読書でどんなことを勉強しましたか。また、感想を自由に書いてください。」である）からも見てとることができる。①については、中学年では「びゅんびゅんごまやおさるのジョージがおもしろかったです。」（3年）など、具体的な図書に関するコメントが多く寄せられていたが、高学年になると、「初めて伝記を読みました。伝記はいろいろな人の説明をしてくれるので、エジソンなどのことがよくわかりました。エジソンは、小学生のとき退学してしまったことなど。また伝記を読むときがあれば、いっぱい読みたいです。」、その本を一般化してジャンルに触れているコメントが多かった。②については、「わたしは、読書がとても楽しくなりました。わたしは、本がこんなに面白いとは思っていませんでした。」（3年）、「私は本が好きではなかったけど、アニメーションでは、なんか読まなくちゃと思い読めました。」（5年）、「読書活動では、たくさん本を読んでいったので、段々本が好きになってきました。本ってこんなに面白いんだと思いました。本なんてつまらないと思っていたのに、読書活動を通して本を好きになることができたので、本当に良かったです。」（6年）を挙げることができる。③についても、「みんなで同じ本を読むと、同じクイズや話ができるから、面白かった。」（4年）、「みんなでじゅんばん当てるクイズをして、協力がさらに分かった。」（6年）、「1人で読むよりみんなでやった方が楽しいということ、読むほかにも本を使って楽しくやれるということが良かった。」（6年）と、一人ではなく、集団で読書することに関して、肯定的な感想を持ったようである。

## (6)地域と大学の連携

教師用アンケートでは、地域と連携していく読書活動として、大学に期待することを尋ねた。以下のような回答が寄せられた。

- ・読書が好きになっていくような指導。
- ・読書活動の内容、やり方を教えていただきたい。
- ・物語に関して（低児にとっては）物語のクイズの内容が細かく、難しいと思われるので、もう少し簡単にしていただき、みんなが参加できるものにしていただくとありがたいです。発問をしながら、物語のあらすじや筆者が伝えたいことをみんなで味わえるとよいと思いました。もう少し短編でもよいのかもしれませんが。
- ・私たちができないようなこと。私たちが生かせるようなこと。
- ・読書指導方法の提案
- ・様々なジャンルの本を紹介していただければと思います。

- ・今年のように、少人数グループで活動できるのがよかったので、アシスタントの方がきてもらえるのがよかった。
- ・読書指導に適した本をどんどん紹介していただきたいです。そして、その本を使っての指導方法プリント等でも頂けたら、と思います。
- ・選書など勉強になる。図書それぞれの役割や目的など。
- ・子どもが関わりあえる活動だと良い。1人が待っている時間が長くないようになるといい。
- ・事前に読んでおく期間は10日以上とって欲しい。
- ・学級全員が同じ本を読むこと、それだけ冊数がそろふことは魅力がある。今後も続けて欲しい。

ここには、行った読書活動に関する細かい要望から、大学がかかわる意義までさまざまなレベルのことが述べられている。整理してみると、まず、この読書活動は

- ①学年に応じた本の提案として機能し、担任教師には選書が参考になること
  - ②読書の指導方法の提案になっており、プリント等を充実させて担任教師に示していく必要があること
  - ③同じ本（あるいは同じ種類の本）を扱うことに意味があり、さらには意図的に児童同士がかかわりあいを入れていくことが望ましいこと
- とまとめることができる。具体的な改善点としては、
- ①全員参加のためには、本を短くしたり、問題を簡単にしたりする工夫が必要なこと
  - ②アシスタントがいて、少人数に対応できることが望ましいこと
  - ③本を読む期間を10日間以上とすること

が挙げられていた。以上のことから、今後地域連携として大学が行えることは、このようにまず選書や指導方法を示し、適切な問題を吟味したプリントなどを充実させていき、同じ本を十分な読書時間を確保しながら提供するというのである。言い方を変えれば、このようなことを大学側が行っていけば、それは担任教師が今後読書指導を行っていくためのサポートになりうるということが見えてきたとも言える。

## 6. 成果と課題

### (1) 成果

本研究を地域と連携した大学側の活動と見た場合、次の5点の成果があった。

- ①この活動が読書指導研究に実験的実践の場を与えるものであり、実践の結果を筆者の行っている多方面の読書指導研究に還元できたこと。
- ②この活動が読書指導に関する教員研修に実験的実践の場を与えるものであ

り、実践の結果が教員研修プログラムに還元できたこと。

- ③卒業研究などの学生の研究に貢献したこと。
- ④教育実習的な要素を含み、学生の指導力を高める場として機能したこと。
- ⑤活動の内容によっては、クラスを半分に分けることが効果的であることが分かったこと。

一方、小学校側から見た場合には、次の3点の成果があった。

- ①教師が読書指導に適した本を知る場になったこと。
- ②教師が読書指導の方法を知る場になったこと。
- ③人数分の図書の提供を受けたこと。そのことによって、児童同士にコミュニケーションが図れることが分かったこと。

このように、地域と連携した読書活動の取り組みは、大学・小学校双方に意義のあるものであった。今後さらに、他の本を紹介したり、他の指導方法を紹介したり、プリント・教材などを充実させたりしていくことで、学級担任自身が読書指導をしていくことをサポートできればよいと考えている。

## (2)課題

今回の取り組みは、アンケートの結果などから、大学・小学校双方に意義のある取り組みであったという実感は得られたものの、やはりそれを分かりやすい読書力という形で測定できなかったことが課題として残った。どうしてそのような課題が残ったかを検討する。

この読書活動の成果を測るために、最初は国際教育到達度評価学会 (International Association for the Evaluation of Educational Achievement) によって行われている国際的な読解力調査 PIRLS (Progress in International Reading Literacy Study、パールズ) の設問を用いることを試みた。PIRLS は、15歳の義務教育を修了した生徒たちに行われる国際学力調査 PISA と異なり、小学校4年生を対象に、学校で行われている読解力を育てるカリキュラムにおける到達度を測定するテストであるからである (足立、2007)。図6～図7は、そのうちの問題文の1つで、レンタサイクル屋に置かれているパンフレットの表と裏を表している。表側のレンタサイクルの費用を示した表や、裏側の地図を読みとらせるというものである。これならいわゆる教科書教材の文章の読解ではなく、実際の日常生活において読む行為を評価できると考えた。また、このような国際テストを用いれば、最初見附小学校の子どもたちが国際的に見てどの程度の読解力を持っており、1年間あるいは2年間の読書活動によって、どの程度の読解力を身につけるようになったかを見ることができる。ところが、このテキストを訳出する中で、問題が生じた。レンタサイクル屋に置かれている自転車の種類が、日本には一般的に出回っていないものがあり、日本語として適切に訳出することができないという問題である。これは、設問と照らし合わせてみて、読解力を測定する際に困難が生じることが明らかになり、断念せざるを得なかった。

# Zippy Bike Rental

Cycling is fun for everyone  
& healthy too!

Come and explore 11 kilometres of flat easy traffic-free cycle routes in beautiful countryside following the River Nord...

Whatever bike you prefer, ZIPPY has the right one for you. Great choice... Mountain bikes, tandems, children's bikes, trailers for kids and child seats. Trekking bikes for ladies and men, soft comfortable seats and 21 easy gears.

All ZIPPY bikes are replaced every year and regularly serviced. Cycle helmets, pumps, backpacks and locks are free to all.



Trailer

For children under 7 we have bikes that attach to an adult bike—great for keeping children where they should be and helping them out on long rides. For children under 8 we have comfortable child seats and trailers that attach to the adult's bike. For the more able young cyclist we have little bikes with or without stabilizers.

What does it cost to rent a bike?  
(Prices in £)

Bicycle Rental	Half Day	Full Day	Per Week
Adults / Trailer	8	12	50
Children (under 16)	6	9	30
Child Seat	2	3	12

TRY before you BUY



# Follow

## the River Nord

### Trail



Tandem

with Zippy  
Bike Rental

図 6 PIRLS の出題に用いられたレンタサイクル屋のパンフレット (表)

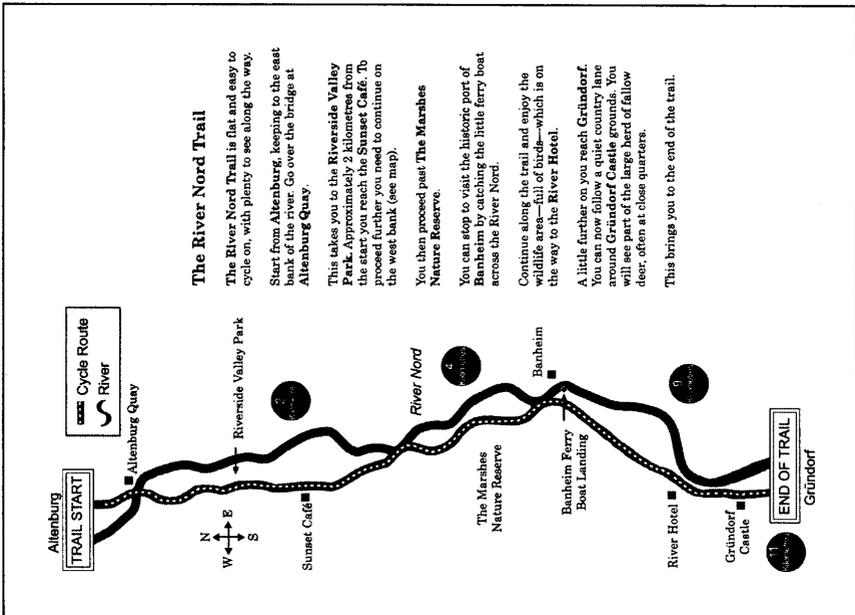


図 7 PIRLS の出題に用いられたレンタサイクル屋のパンフレット (裏)

## 7. おわりに

以上、本稿では、平成 18 年度・19 年度に見附小学校で「総合的な学習の時間」に実施した「読書活動」を報告し、大学と小学校の地域連携という点で考察を加えた。一般的に学校は、読書指導を行うのに適した環境であるとは言い難い。しかし、具体的な本を提供し、指導方法を提案し、カードやプリントを作成すれば、現場を支える読書指導が可能であることを示した。

## 謝辞

本研究に関してご協力いただいた見附市立見附小学校の小西邦明校長（平成 18 年度）、池津久成校長（平成 19 年度）、担当の山崎勝之教諭をはじめ、学級担任の先生方、実践に参加してくれた子どもたちに御礼申し上げます。

## 文献

- 足立幸子（2007）「初等教育段階における国際読書力調査 PIRLS の特徴—他の国際テスト・国内テストとの比較から—」『新潟大学教育人間科学部紀要人文・社会科学編』第 9 巻第 2 号 pp.171-189.
- 足立幸子編（2008）「平成 19 年度 独立行政法人教員研修センター教員研修モデルカリキュラム開発プログラム（教育課題研修）報告書『知識社会を支える読書力育成の読書指導教員研修プログラムの開発』」
- 足立幸子・常木正則・堀 竜一・岡野 勉・佐藤佐敏（2008）「PISA 型読解力を育成する読書指導ができる現職教員研修プログラムの開発と実践」『日本教育大学協会研究年報』第 26 集 日本教育大学協会第二常置委員会 pp.197-208.
- Blanchowicz, C., & Ogle, D. (2001) *Reading Comprehension*. The Guilford Press.
- Hoffman, J. V. (1992). Critical reading/thinking across the curriculum : Using I-Charts to support learning. *Language Arts* 69 : 121-127.
- International Association for the Evaluation of Educational Achievement (2008). Progress in International Reading Literacy Study. <http://timss.bc.edu/>
- 新潟大学・新潟市教育委員会（2009）「知識社会を支える読書力育成の読書指導教員研修プログラムの開発」独立行政法人教員研修センター『平成 19 年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム報告書』印刷中
- Ogle, D. (1986). K-W-L : A teaching model that develops active reading of expository text. *The Reading Teacher* 39 : 564-570.
- Sarto, M. M. (1998). *Animación a la lectura, con nuevas estrategias*. Ediciones SM
- M・M・サルト、宇野和美訳（2001）『読書へのアニメーション—75 の作戦—』柏書房

使用した児童用図書（タイトル・シリーズ名の50音順）

- 高楼方子・千葉史子（1995）『いたずらおばあさん』フレーベル館
- エーリヒ・ケストナー、池田香代子訳（2000）『エーミールと探偵たち』岩波書店
- エーリヒ・ケストナー、高橋健二訳（1962）『エーミールと探偵たち』岩波書店
- ルース・スタイルス・ガネット、ルース・クリスマン・ガネット、わたなべしげお訳（1963）『エルマーのぼうけん』福音館書店
- 寺村輝夫・和歌山静子（1982）『王さまばんざい』理論社
- オトフリート・プロイスラー、中村浩三訳（1990）『大どろぼうホッツェンプロッツ』偕成社
- 早野美智代（1998）『ナイチンゲール』ポプラ社ほか、ポプラ社「おもしろくてやくにたつ子どもの伝記」シリーズ
- ロアルド・ダール、中村妙子訳（1985）『オ・ヤサシ巨人BFG』評論社
- 後藤ユタカ・菅谷淳夫（1996）『ローラ・インガルス』小学館ほか、小学館「学習まんが人物館」シリーズ
- ムロツタネ象（1981）『卑弥呼』学習研究社ほか、学習研究社「学研まんが人物日本史」シリーズ
- ゆもとかずみ・ほりかわりまこ（2000）『くまって、いいにおい』徳間書店
- エドモンド・ウォレス・ヒルディック、落沢忠枝訳、山口太一（1987）『こちらマガーク探偵団』あかね書房
- 合津玲子・中島真理（2005）『イヌの大常識』ポプラ社ほか、ポプラ社「これだけはしっておきたい」大常識シリーズ
- 三浦慎悟（2002）『小学館の図鑑NEO(1)動物』小学館
- 門田裕一・和田浩志・畑中喜秋・岡田比呂実（2002）『小学館の図鑑NEO(2)植物』小学館
- 湯本香樹実（1994）『夏の庭』講談社
- 矢玉四郎（1980）『はれときどきぶた』岩崎書店
- ジョルディ・シエラ・イ・ファブラ、宇野和美訳（1998）『ビクトルの新聞記者大作戦』国土社
- H・A・レイ、光吉夏弥訳（1998）『ひとまねこざる』岩波書店
- 滑川道夫（1981）『野口英世』講談社ほか、講談社「火の鳥文庫」シリーズ
- 宮川ひろ・林明子（1982）『びゅんびゅんごまがまわったら』童心社
- モーリス・ドリユオン、安東次男訳（2002）『みどりのゆび』岩波書店
- C・S・ルイス、瀬田貞二訳（2000）『ライオンと魔女』岩波書店
- 杉浦範茂・斉藤洋（1987）『ルドルフとイッパイアッチテナ』講談社

（新潟大学教育人間科学部）

資料1 児童用アンケート

このアンケートは、テストではありません。自分の思ったことや考えたことをそのまま書きましょう。

見附市立見附小学校 \_\_\_\_\_ 年 組 番 \_\_\_\_\_ 名前： \_\_\_\_\_

1. あなたのふだんの「読書習慣」について教えてください

- ① 最近1カ月に、何冊本を読みましたか 冊
- 
- ② 1日にだいたい何分くらい本を読みますか 分
- 
- ③ 1カ月に何冊くらい本を借りますか 冊

2. 「読書活動」の前に、くばられた本をどのように読みましたか。(○をつけてください) 本によってちがう場合は、一番多かったやり方を答えてください。

- ① くばられた本をどのくらい読みましたか
- |            |             |                |             |                |
|------------|-------------|----------------|-------------|----------------|
| ぜんぶ<br>読んだ | ほとんど<br>読んだ | 半分よりも<br>多く読んだ | 少しだけ<br>読んだ | ほとんど<br>読まなかった |
|------------|-------------|----------------|-------------|----------------|
- 
- ② くばられた本をどこで読みましたか
- |            |              |                |           |                 |
|------------|--------------|----------------|-----------|-----------------|
| 学校で<br>読んだ | 自分の家<br>で読んだ | ともだちの<br>家で読んだ | 塾で<br>読んだ | そのほかの<br>場所で読んだ |
|------------|--------------|----------------|-----------|-----------------|
- 
- ③ くばられた本をだれと読みましたか
- |            |              |               |                         |                |
|------------|--------------|---------------|-------------------------|----------------|
| 一人で<br>読んだ | ともだちと<br>読んだ | きょうだい<br>と読んだ | おとうさん・<br>おかあさんと<br>読んだ | そのほかの<br>人と読んだ |
|------------|--------------|---------------|-------------------------|----------------|

3. 「読書活動」をやってみて、次の質問に答えてください。(1つに○をつけてください)

- |                            |      |            |               |               |            |
|----------------------------|------|------------|---------------|---------------|------------|
| ① 本を使ってあそんで、<br>たのしかった     | そう思う | 少し<br>そう思う | どちらとも<br>いえない | あまりそう<br>思わない | そう<br>思わない |
| ② 一人で本を読むよりも、<br>たのしかった    | そう思う | 少し<br>そう思う | どちらとも<br>いえない | あまりそう<br>思わない | そう<br>思わない |
| ③ 一人で本を読むよりも、<br>内容がよくわかった | そう思う | 少し<br>そう思う | どちらとも<br>いえない | あまりそう<br>思わない | そう<br>思わない |
| ④ 前よりも、<br>本を読んでみたくなった     | そう思う | 少し<br>そう思う | どちらとも<br>いえない | あまりそう<br>思わない | そう<br>思わない |
| ⑤ 前よりも、学校で図書館に<br>いきたくなった  | そう思う | 少し<br>そう思う | どちらとも<br>いえない | あまりそう<br>思わない | そう<br>思わない |
| ⑥ また本を使ってあそんでみたい           | そう思う | 少し<br>そう思う | どちらとも<br>いえない | あまりそう<br>思わない | そう<br>思わない |

【うらにつづく】

4. 6回の読書活動で5冊の本を読みました。  
(物語の本を3冊、図鑑を1冊、「〇〇の大常識」か伝記を1冊)

(1) 5冊のなかで、一番おもしろかった本は何ですか。  
(書名を全部覚えていないときには、何月ごろに読んだこんな本という言い方でいいです。)

(2) 5冊のなかで、一番むずかしかった本は何ですか。

(3) 6回の読書活動のうち、一番おもしろかった活動は何ですか。

(4) 6回の読書活動のうち、一番つまらなかった活動は何ですか。

(5) 今度はこんな本を読みたい、という本があったらおしえてください。

5. 読書活動でどんなことを勉強しましたか。また、感想を自由に書いてください。



資料2 教師用アンケート（裏面省略）

このアンケートの目的は、提供する読書活動を改善するための情報を得ることです。読書活動を行った3年～6年の学級担任の先生方をお願いしたいと思います。それ以外の先生方がお答えくださる場合には、5～7と裏面をお願いいたします。

【2007年度見附小学校「読書活動」についてのアンケート】

今年度の読書活動では、以下の5冊の本を扱いました。

	フィクション1	フィクション2	フィクション3	ノンフィクション 1	ノンフィクション 2・3
3年	ひとまねござる	びゅんびゅんごまがまわったら	エルマーのほうけん	図鑑（動物）	イヌの大常識
4年	くまっでいいにおい	はれときどきふた	こちらマガーク探偵団	図鑑（植物）	〇〇の大常識シリーズ
5年	ルドルフとイッパイアツテナ	大どろほう ホツツェンプロッツ	いたずらおばあさん	図鑑（植物）	おもしろくてやくにたつ子どもの伝記
6年1組・3組	みどりのゆび	オ・ヤサシ巨人BFG	夏の庭	図鑑（動物）	まんが人物日本史
6年2組・4組	みどりのゆび	ビクトルの新聞記者大作戦	夏の庭	図鑑（動物）	まんが人物日本史

（ 年 組担任・担任外）

1. 5冊のうちどの本の活動が一番良かったでしょうか。表の中に○を1つつけてください。
2. 1のように考えた理由は何でしょうか。
3. 5冊のうちどの本の活動が一番良くなかったでしょうか。表の中に×を1つつけてください。
4. 3のように考えた理由は何でしょうか。
5. 読書活動をすることで、子どもたちに何か変化はあったでしょうか。
6. 大学と連携していく読書活動では、どんなことを期待しますか。（意見・要望など）
7. 来年度（学級担任として）、自分のクラス（や何かの場面）で行ってみたい活動はありますか。あるとしたら、どんな活動を行いたいですか。